

Doc. 2585 Evid

Folder 3

(6)

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 2585

TITLE: Mimeographed Files: Re Areas of Military Importance in
Landings on KAMCHATKA Peninsula. (Vols: Vol 3 and Vol 4)

Table of Contents

SOURCE: Asahigawa

MICROFILMING

Document 2585 Source: Asahigawa
has been microfilmed on 25 Oct 1948 for
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON
Files Unit
Document Division

INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

Doc. No. 2584 - 2585

12 August 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: Mimeographed Files: Re Areas of Military Importance in Landings on KAMCHATKA Peninsula. (2 Vols: Vol 3 and Vol 4)

Date: March 1941 Original Copy Language: Japanese

Has it been translated? Yes No
Has it been photostated? Yes No

LOCATION OF ORIGINAL

Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Asahigawa

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE: Relations with USSR

SUMMARY OF RELEVANT POINTS

This file is dated March 1941 and was compiled by the OTARU branch of the Transport Command of the Japanese Army. This volume deals with geographical investigations of the East Coast districts of the Kamchatka Peninsula.

The following items are investigated: terrain, inhabited zones, roads, communications, harbors, weather, sanitation, military affairs, customs and disposition of Russian officials. There are many outline maps, photos and sketches of this area particularly of beaches and shorelines.

There are no actual plans for invasion.

Vol 3 - Doc. No. 2584

Vol 4 - Doc. No. 2585

Analyst: Lt Wilds

Doc. Nos. 2584 - 2585

2585

Vol. 4

Proj. No. -
S.A. No. 30
Sack No. 1
Item No. 14

Lumi SASAKI

Information Data of the Important Military

Strategic Points for Landing in the Northsea

Areas

by Otaru Local Section, Shipping

Transportation Headquarters

March, 1941

Contents

I Appendix to the Investigations on the Northsea Areas

1. Actual State of Peter Havalovsk City

2. Photographs of the Western Coast of Kamchatka

Peninsula

3. Agriculture in Kamchatka Peninsula

4. Coal and Peat in Kamchatka Peninsula

5. Appendix to the Investigation on the Military

Affairs in a Coast Province during the Fiscal

Year of 1940

6. Appendix to the Investigation on the Western

Coast of Kamchatka Peninsula during the Fiscal

Year of 1940

7. Appendix to the Investigation on the Eastern
Coast of Kamchatka Peninsula during the
Fiscal Year of 1940

Doc. 2585 Evid.

Folder 4

(90)

アア
Doc 2585

昭和十三年三月

極秘

上陸作戦為
北洋方面

ASAHIGAW CRATE 35

BTWB
14

重要情報資料

第四卷

Proj. No.	
S. A. No.	30
Sack No.	1
Item No.	14

小船輸送司令部
樽支部



第四卷

第一章

第四編

目次

次

北洋方面調査追加

現状

附圖第一

附圖第二

附圖第三

第二章

附圖第四

附圖第五

附圖第六

附圖第七

ペトロハバロフスク市ハ現状

ペトロハバロフスク港

アバチエトスカヤ港

加半島西海岸寫真

ウトコロカ地方

オブルコイナ地方

コシパ地方

北キシカ地方

ヤイナ地方

オゼルノイ地方

第三章

勘察加半島，農業

第四章

勘察加半島，石炭及泥炭

第五章

沿海州方面軍事昭和十五年度

第六章

調查追加
勘察加半島西海岸昭和十五年度

第七章

調查追加
勘察加半島東海岸昭和十五年度

第一章 ペトロハヴロフスクノ現状

第一章 市政

ソノ紙ノ報導ニ依レバ数万ナルモ的確

ハラズ諸般ノ事情ヨリ推定スルニ

十三万人程度ナリ

二 市豫算

一九四〇年度

収入 一、七、八、五、九、〇、〇 留

支出 一、〇、六、〇、〇 留

ソノ當局ハ「ペトロヴロフスクノ港ノ地

位ニ鑑ミ其建設整備ニ努メツ、アル

モ甚察加ハ人的資源ニ乏シク物的資

源モ亦漁業ヲ除キ未タ調査ノ域ヲ脱

セズシテ消費地方タルヲ以テ其ノ大

第二章

一

(1) 漁業人民委員部系統ノ「カムチヤツカ

ルイブストロイ

其建設計画遂行率ハ次ノ如シ

一九三九年	一九三八年	一九三七年	一九三六年
一一七〇%	一一八七%	一一三二%	一一四〇%

部分ハ之ヲ求めガルベカラズ 爲ニ

建設事業遅々トシテ進捗セズ豫算ニ

計上セラレタル建設資金ノ如キモ大

部分ハ消化シ得ザル現状ニアリ

建設事業

建設機関

二

		(1)		(1)		(3)		(2)	
地帯	ル由ナリ	場村ト	= 依リ	ベト	アワ	船修	建設	アコ	市系統
ナ	リ	ト	リ	ト	ワ	理	物中	會社	ノ
ル	規	稱	連	ハ	ヤ	工	主要	関係	ノ
タ	模	シ	ス	バ	内	場	ナル	ノ	ゴ
メ	ハ	第	現	ロ	ラ		モ	ア	ル
不	同	ニ	在	フ	コ		ノ	コ	コ
詳	方	次	ヲ	ス	ワ		モ	ス	ン
ナ	面	建	同	夕	ヤ		ノ	ト	ム
リ	ノ	設	地	市	湾			ロ	ス
	出	工	ヲ	ト	=			イ	ト
	入	事	船	自	在				ロ
	禁	行	工	勤	リ				イ
	止	ハ	船	車					シ
	第	レ	工	道					
	三	ア		路					
	次								
	五								
	年								

其ノ建設計画遂行率ハ如ノ如シ

一九三九年 四七%
 一九三八 六七%
 一九三七 八〇%

アコ會社関係ノアコストロイ

建設物中主要ナルモノ

船修理工場
 湾内ラコワヤ湾ニ在リ

ベト口ハバロフス夕市ト自動車道路

場村ト稱シ第ニ次建設工事行ハレア
 ル由ナリ規模ハ同方面ノ出入禁止
 地帯ナルタメ不詳ナリ 第三次五年

計画末年迄ニ建設完了ノ豫定ナリ
職工ハ「スタハ」ノ運動者及中堅職工
三百餘名アリト云フ
附属工場學校アリ
初等學校卒業程
度ノ者ヲ採用シ一〇七乃至二〇四留
ノ給與ヲナシ十八ヶ月ノ教育ヲ施
旋盤工及鐵工ヲ養成ス
工場ノ成績右ノ如シ(新聞所報ニ依ル)
一九三九年度 計画遂行率一一四%
(右ノ量的ニ見タルモノニシテ質及
生産原價ヨリ見レバ計画遂行セラ
レズ約四〇、〇、〇、〇留ノ缺損ナリ)

一九四〇年度七月間、遂行率

四九%

(年産計画一七、〇〇〇、〇〇〇留船

抽修理、外船及發動機船建造中)

一九四一年度

(生産計画一、〇〇〇、〇〇〇留船

働者三百名増員ノ要アリ)

(2) 製罐工場

前記、船舶修理工場付、了リ、(一九

三九年三月完成)

製造能力大体五十万缶ト推定ス(勘

察加ニ於ケル換業用空罐ノ需要ヲ

完全ニ充足シ了ルモ、如シ)

昨年度許画遂行率八五六%

3
軍用倉庫

(操業ハ錫及鉄力不足ノ夕々昨年ハ
秋ヨリ止本年ハ五月ヨリ作業ヲ
ナセルモ如シ

本年四月ヨリ年回六噸(將來八一

一噸ニ達スヘシト云フニ達ス

工場附屬電気分解工場ノ操業ヲ開

止セリ

棟数ニ合コンクリート建大倉庫)

位置ベトロハバロフス市西北

端クルトウチノ工湖西岸ヲアチ

チ湾ヨリ遮キルオセルノカヤ

砂嘴、北端ニアリ(尚同砂嘴南端

ニハ「A」K「O」會社ノ大倉庫数棟了

リ一九三八年秋起工兵及囚人

ヲ役役ニ本年竣工セリ

(4) 重油タンク

ベトロロハバロフスク西方「ア」ワ

ヤ湾岸「セ」ログラスカ村ニアリ

個数ハ西三年前同様三

三

其、他 麵麴製造所 一九三九年開設

(1) 製造能力一日 一三噸半

(2) 煉瓦工場

建設費 四三五〇 箇

(3) 家具工場

部	位置	内容	建設費
	(1) 魚類冷蔵コンピナ	建設者手及豫定ノモノ	一〇六〇〇〇留
	(2) 魚類冷蔵コンピナ	新聞所報	
	(3) 共同住宅	(多数)	
	(4) 石嶺店		
	(5) 中學校		
	(6) 劇場		
	(7) 製材工場		
	(8) 切石製造所		

(ウ)	(ホ)	(ニ)	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	種建
肥料工場	鯨加工場	イセエビ製造所	代七噸製造所	氷室收容能力	一日製造能力	船對スル供給目的トス	坪 七万立方米
一晝夜製造能力	一晝夜製造能力	一晝夜能力	製造能力一交	五〇〇屯	一〇〇噸	冷凍船及運送	

第三章

面却ヲ建設公
 =セラシ居ルニ比シ公共施設方面ハ閑
 突出シテ市街ヲアワケ千ヤ湾ヨリ
 (2) 發電所
 (3) 映画館
 (4) 国立銀行
 (5) 産院
 (6) 託兒所
 及物資狀況
 尚多少ノ活況
 (1) 瀝過工場
 肝油製油能力一交
 七〇屯
 代三噸

第四章「ベトロハハロフスク市ヲ中心トスル交通」

遮キル「シグナリナヤ山ノ一部及其延
長タル「コリスカ」山ヲ開放シテ文
化々休息公園ト稱シ居ルモ何等施設
ノ見ルヘキモノナクニ三年前ニ見タ
ル夏期遊覧「ボート」ノ賃貸ナド本年見
當ニザルニ至リシ如キ返ツテ退化ノ
狀況サヘアリ又電力量ハ必要量ノ六
〇%ニ過キスシテ水道網ハ擴張ノ跡
ナク多クハ共用栓ヲ使用シツ、アリ
市内ハ物資極メテ不足シ煙草、燐寸、砂
糖ノ如キ日用必需品スラ数量ヲ限り
且時々販賣セラル、ニ過キサル狀況
ニアリ

(1) 陸路 一般ニ發達セス其主因ハ小岳

又ハ凍土地帯多ク橇ニ依リ雪上ヲ通

行シ得ル時期長ク夏期短ク且交通量

小ニシテ道路ノ必要ヲ痛感セザルニ

アルベシ

ヨ「ペトロハバトフス」港 — 「ミリコウオ」間

右延長四〇〇 軒ハ騎馬ニテモ通行不

能ナリ

註 「ミリコウオ」(カムチヤツカ) 河流域農業ノ中

心地)ヘノ物資輸送ハ「ウスチ、カムチヤツカ」

ヲ經由シ「カムチマツカ」河ニ依リ行ハレ

居ルモ途中屢々積換行ハルルヲメ

諸掛り嵩ムノミナラズ輸送期ヲ逸

シ組織的ニ物資配給ノ不足ヲ來シ
居レリ

(四) 港ヨリ「マルカガナルイナキチニ
至ルモ亦騎馬行困難ナリ

(ハ) 「ペトロハバトラス」港ヨリ「バラトウンカ」
至ル自動車ノ運行ニ適スルモ途中

ノ三河川ニ橋梁ナキ為容易ナラズ
ト云フ

(三) 「ペトロハバトラス」港ヨリ西海岸「ホリシエ」
至ル

右工事開始以來既ニ数年ヲ經過シ
アルモ本年三月ノ勘察加州黨會議
カ本道路ノ建設ヲ最近ニ、三年間ニ
完了スヘキ旨決議シ居ル點ヨリ推

シテ未完成ノモト判定セラル

(木) 郊外交通機関

「ベトロハバロフスク」—「エリソウ」間約三十料

—昨年以來運行シアル乗合自動車

アリ

(2)

航空機 航空路ハ州内交通上重要意

義ヲ有シ一九三六年以來非軍用機ノ

活動ヲ見ツ、アリ

(イ) 着水場 「ベトロハバロフスク」前面ニ突出ス

ル「シグナリ」又「イ岬」一棟アリ

格納庫アルモ無蓋ニシテ二機ヲ收容

シ得ルニ過キス故ニ常ニ一、二機ハ露

天ニアリ

(D) 航路及使用機

本年実施セル定期航空を、如シ

(A) 「ベトロハロフスク」港 — 「ウスチ・カムチヤツカ」

(B) 「ベトロハロフスク」港 — 「ウスチ・ホリシエレツク」

(C) 「ベトロハロフスク」港 — 「ハロフスク」

七月一日ヨリ開通ス

使用機 「B.S.」三〇號機 水上機

機長二八米 翼長三〇米

高廿四米 四發動機

旅客席四六 寢台トシテ使用ノ

場合ハニ六 食堂便所ノ設備了

(3)

水路 水路ハ 勘察加、生命線ト稱シ得ヘク

本地域ニ對スル大陸ヨリノ物資ハ
 主トシテベトロハゴフスク港ヲ經由シ
 テ行レ集散貨物ハ逐年増加シツ
 、アリ即チ
 一九三一年 入港汽船數 一〇四
 一九三九年 二二一
 ノ如ク一九三六年ノ貨物集散高ハ
 丸材三一、〇〇立方尺 製材六、〇
 〇立方尺セメソト八、〇〇噸
 又船客八四万人ヲ突破セリト謂フ
 ハ一九三〇年ニ比シ六倍ニ當ル

然レドモ港灣設備ニ至リテハ一九
 三〇年或ハ一九三二年ノ水準ニ在
 リト梅セラレ何等改善ノ跡ナク荷
 役ハ機械化セラレズ汽船ニ伴ノ同
 時荷役サヘ不可能ナリト云フ
 現在ノ港内ハ冬期薄氷ヲ見ルモ發
 動機船ノ掃海作業ニ依リ船舶ノ出
 入ニ支障ナシ
 週年航海

「ベトクハロフス」

浦塩

東西沿岸漁業

ンビナト間

沿岸航路

「ベトクハロフス」港ニ基地ヲ有スル「AKO」

船隊所属船 = 依り維持セラルル
船名左記ノ如シ

「エスキモー」

「テルネー」

「ゴツキナキ」

「クヤウイキヤ」 (三五〇〇噸)

「シーマ」 (三五〇〇噸)

「コルイマ」 (七〇〇噸)

「コルイマ」 (七〇〇噸)

「オロキヤン」

「シナヨルス」

「クヤバエ」等

(B) 右船舶ハ大部分老朽シ修理中ノモ
ノ又ハ修理ヲ要スルモノ多ク現在
使用ニ堪フルハ所属船四四、三%ニ
過ギズト云フ
同港入港船舶(一九四〇年一月以降新内ニ
掲載セラレタルモノ)

セー ウエル	コ ツキナキ	エ スヤモス	コ ツキナキ	ワ ンツエテ	サ ハリン	ア シハバツト	イ テリメン	船 名
五 月 （出入三回）	四 月	四 月	三 月	三 月	三 月	二 月	一 月	出 入 月
浦 塩	ヘ 港	ヘ 港	ヘ 港	浦 塩	浦 塩	浦 塩	ヘ 港	出 港 地 名
ヘ 港	キ ーロフ 漁業 コン シナート	ゴ ルフ 漁業 コン シナート	コ ンビ ーナド	ヘ 港	ヘ 港	ヘ 港	勤 加西 海岸 漁業 コン ビナ ード	仕 向 地 名
	魚 類 積 取	漁 業 用 品 輸 送	英 類 積 取		郵 便 物 六 屯 燕 麥 二 屯 雜 貨 二 九 屯		食 料 品 漁 業 用 品 二 六 八 屯	積 載 物 及 航 海 目 的

「オロチヨ」	「セーウエル」	「クズウク」 ストロイ	「スモリーヌ」	「サハリン」	「セーウエル」	「ヤグー」	「メンジンマキ」
七月	七月	七月	六月	六月	六月	五月	五月
「ハ」 港	浦 塩	「ハ」 港	浦 塩	浦 塩	浦 塩	「ハ」 港	浦 塩
勘察加東海岸	「ハ」 港	「サガレン」	「ハ」 港	「ハ」 港	「ハ」 港	勘察加東海岸	「ハ」 港
空罐輸送						漁業用吊輸送 魚類タブル炭積取	

「ア ンガ ルス ト ロ 」	「ベ ト ロ フ ス キ 」	「ス モ ー リ ヌ イ 」	「セ ー ウ エ ル 」	「サ ハ リ ン 」	「ス モ ト リ ヌ イ 」	「エ ス キ モ ハ 」	「エ ス キ ー ロ フ 」	「キ 」
入 月	入 月	八 月	八 月 (出入三回)	七 月	七 月	七 月	七 月	七 月
「サ ガ レ 」	勘察船東岸	右 全	右 全	浦 塩	浦 塩	「ハ 」 港	浦 塩	浦 潮
「ハ 」 港	浦 塩 港 經由	右 全	右 全	「ハ 」 港	「ハ 」 港	ウスチ カムチヤ 」 港	「ハ 」 港	「ハ 」 港
運 炭	炭水補給 旅客搭載							

第五章 警備状況

(1) 国境警備隊

司令 少将級 (新潟記事ヨリ推定)
兵舎 市内及市ノ東方「ミエ」山

麓ニアリ

(2)

飛行基地 ペトロハバトフスク市東方ノ山ヲ
隔テタルハラクトウイルカ湖ニアリ

備考 山中「ベ」港トアルハ「ト」ハ「ロ」フス「レ」港ヲ示ス

「マ」スイ「チ」	八月	「ガ」レ「ン」		木炭積取
「ウ」ホ「ス」ト「ク」	八月	「ベ」港	「シ」ト「カ」漁業 「コ」ン「ビ」ヤ「ト」	塩及空罐輸送

(3)

翼上 = 發動機ヲ有スル水上機 = シテ
今夏十機編隊ノ飛行ヲ目撃ス

水上警備
高速警備艇 = 依リ行ハレ陸上警備ノ

為 = ハ小型火砲ヲ備フ

沿岸警備 = 任スル太平洋艦隊所屬ノ

驅逐艦潜水艦等絶エスベトロハハロフスク港

= 出入スルヲ認メタルガ一九三九年

冬アハチエンスカヤ湾内海軍基地 = 越年セル

聯艦艇左ノ如シ

潜水母艦 一隻

潜水艦 三隻

警備艇 一二隻

(4)

其他

419
最近新来ノ赤襟章及黒襟章等、將兵
ヲ市内ニ見ラル、ヲ以テ正規軍、未
島セルモノト判断セララル



СОТНИ ПАРКОДОВ КРУГЛЫЙ ГОД БОРОДАТ ТИХИЙ ОКЕАН И ОКХОТСКОЕ МОРЕ. ЗАВОЗИ
В ОБЛАСТЬ СОТНИ ТЫСЯЧ ТОНН ПРОДОВОЛЬСТВИЯ, ПРОМТОВАРОВ И ПРОМОШЛИВЕННИ ДВА
ПУТИНЫ И УВОЗИ С КАМНАТИ РЫБУ И ПУЩИНУ.

ТАЕМОЙ, СКАЗОЧНОЙ. НОЕ-ГДЕ СОПКИ КУРЯТ БЕЛЕСЫМ ИДИМЫМ ДИМНОМ, СМЯТЕЛИСТЫХ
ОДН О ДЕЯТЕЛЬНОСТИ ВУЛКАНОВ. ВАС ДАЖЕ ПЕРЕСТАЕТ ИНТЕРЕСОВАТЬ СОПРОВОЖДАЮЩЕ



ТАЕМОЙ, СКАЗОЧНОЙ. НОЕ-ГДЕ СОПКИ КУРЯТ БЕЛЕСЫМ ИДИМЫМ ДИМНОМ, СМЯТЕЛИСТЫХ
ОДН О ДЕЯТЕЛЬНОСТИ ВУЛКАНОВ. ВАС ДАЖЕ ПЕРЕСТАЕТ ИНТЕРЕСОВАТЬ СОПРОВОЖДАЮЩЕ

(真 寫) 眺 眺、港 夕 夕 フ ロ バ ハ ロ ト ベ

周國ノヨリ眺下ルセバハトロバス
市街



冬ノベハトロバトロバス市街

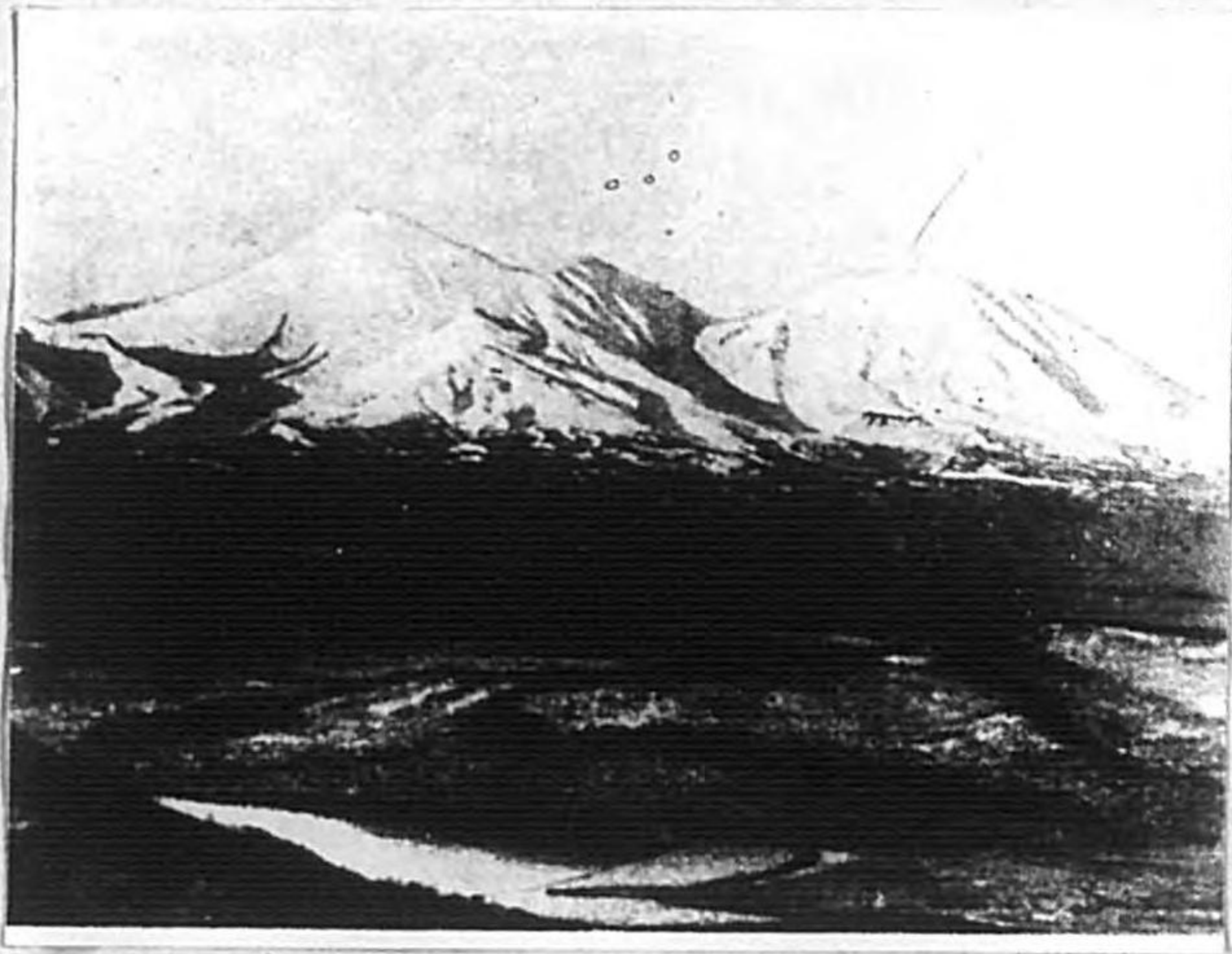


附圖第三

ゴカヤル火山ノ最後ノ景ヲ見ルベシトハバロバノ
市街(チバヤカスノヨリ望ム)



チバヤカスノ火山及チバヤカスノ市街



附圖第四

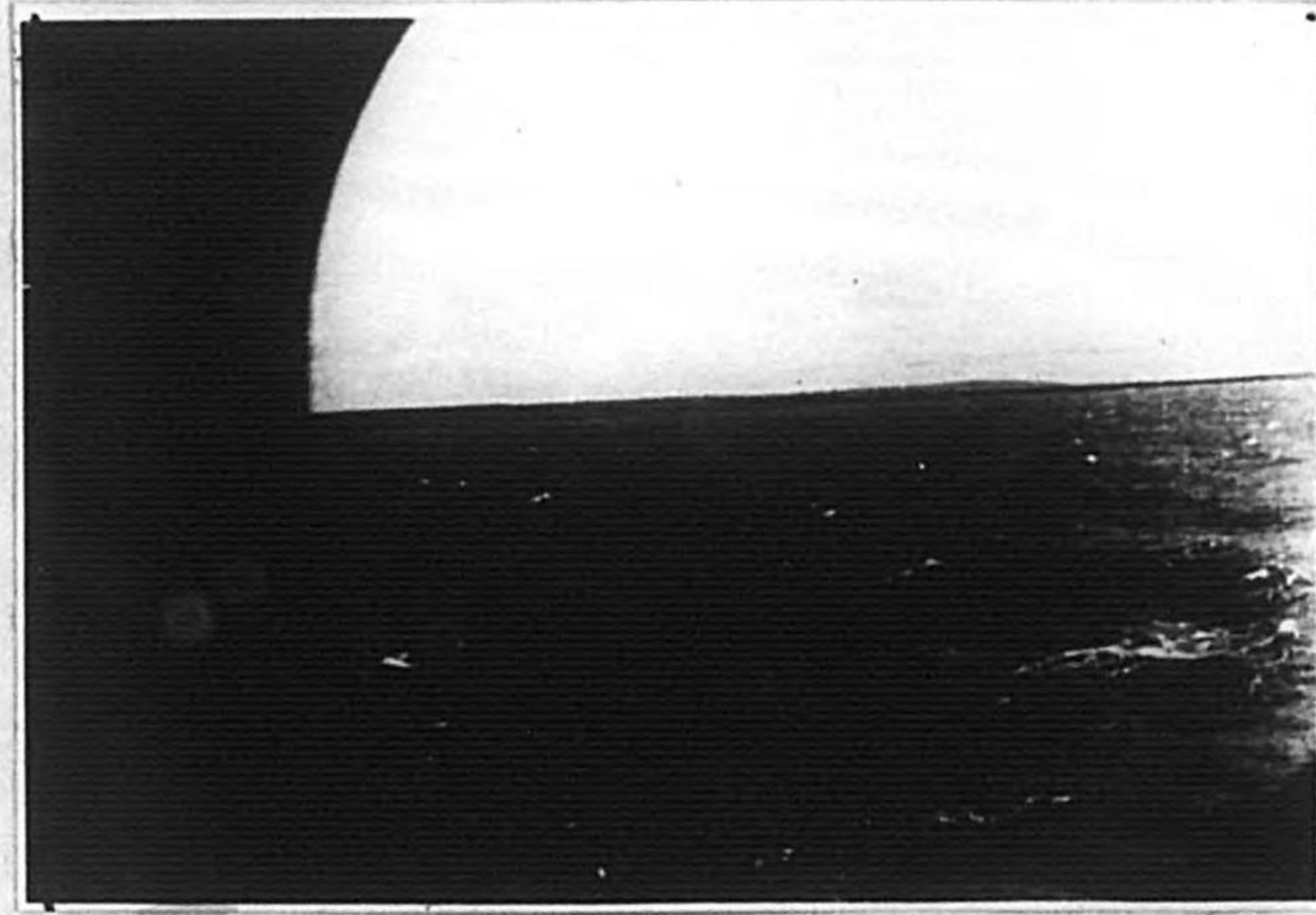
望遠方地カコトヲ



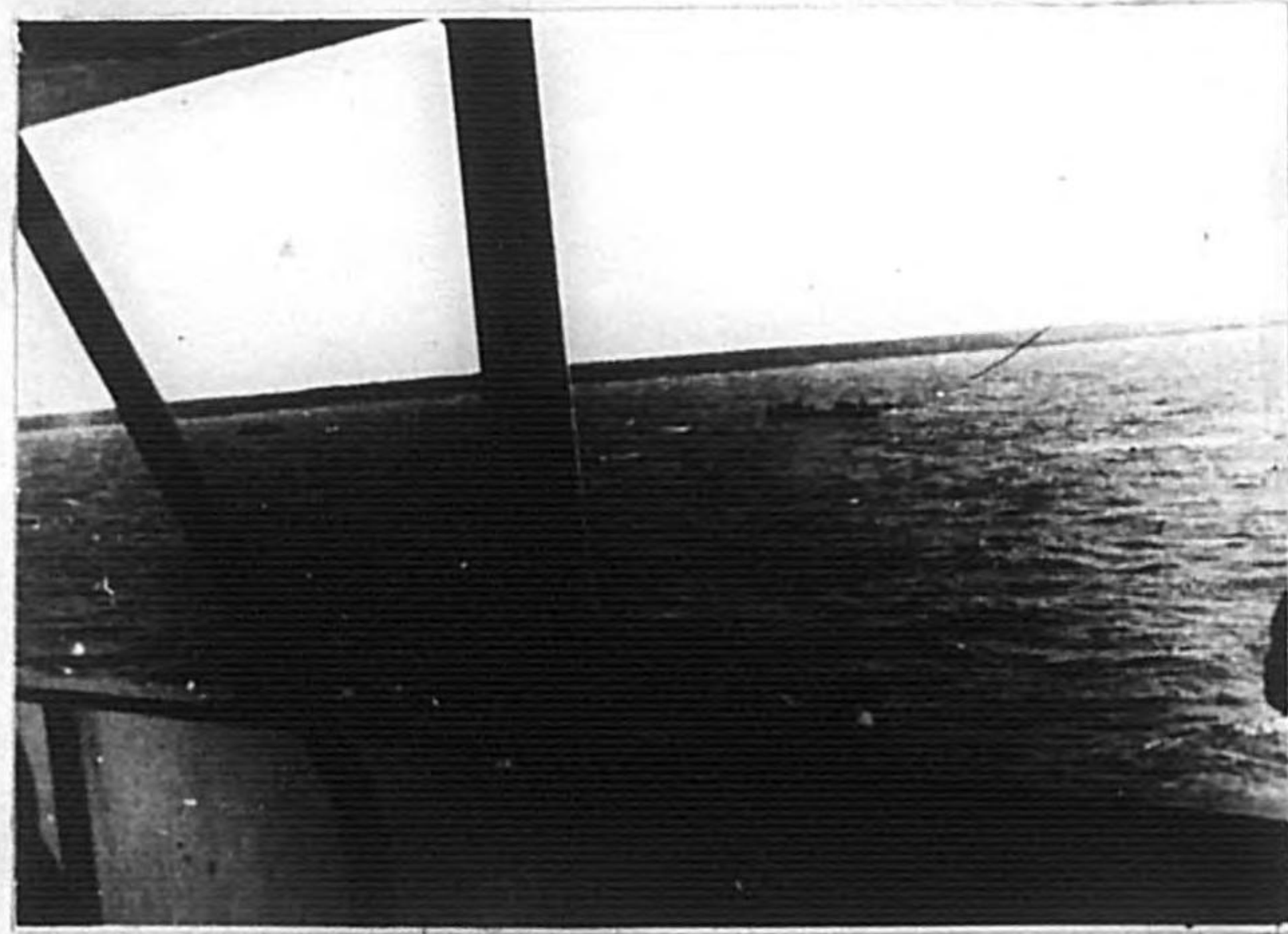
地草岸沿方地カコトヲ



跳遠岸沿部北方地ナイコルブア

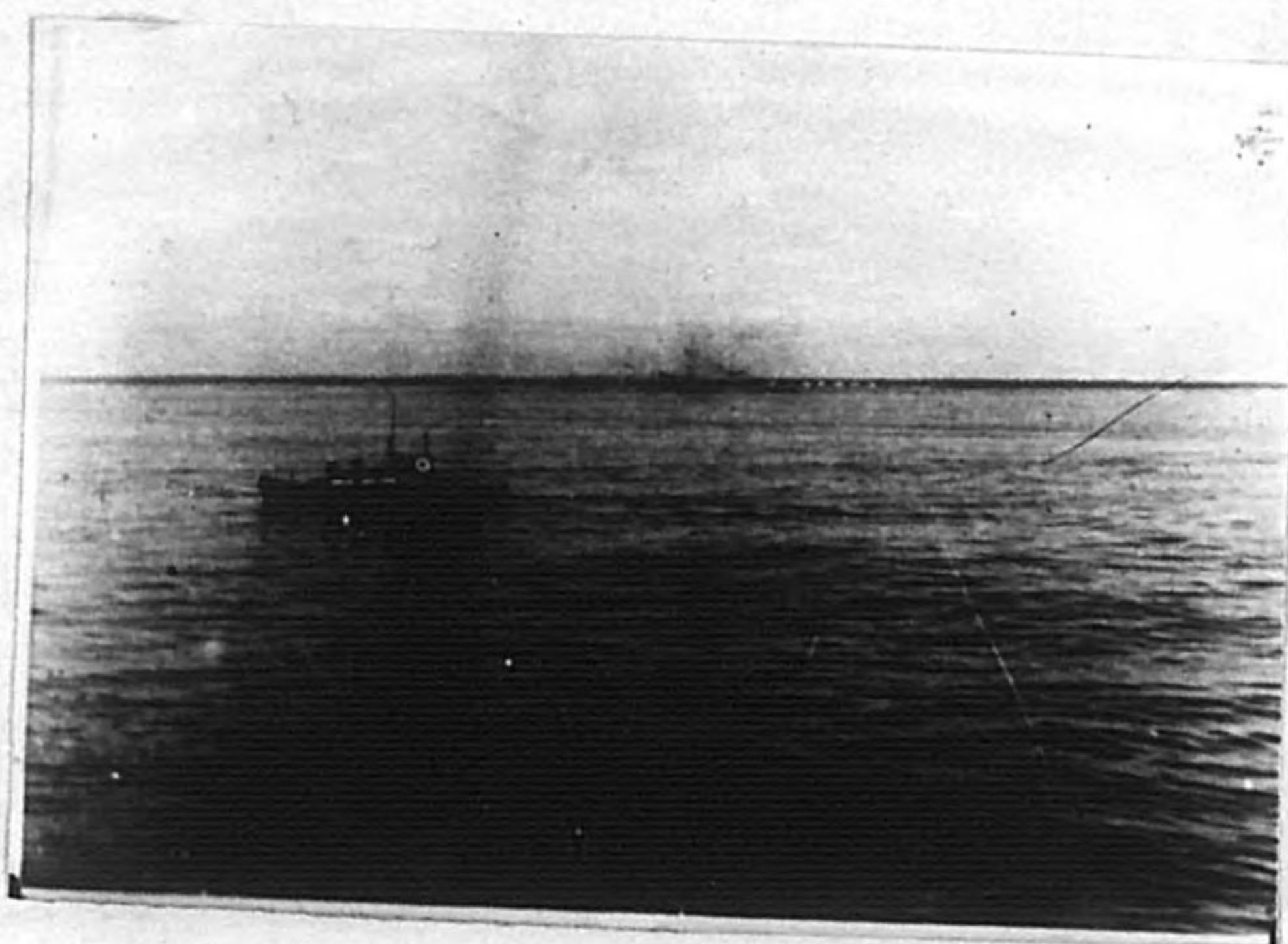


空遠岸沿方地ナイコルブア

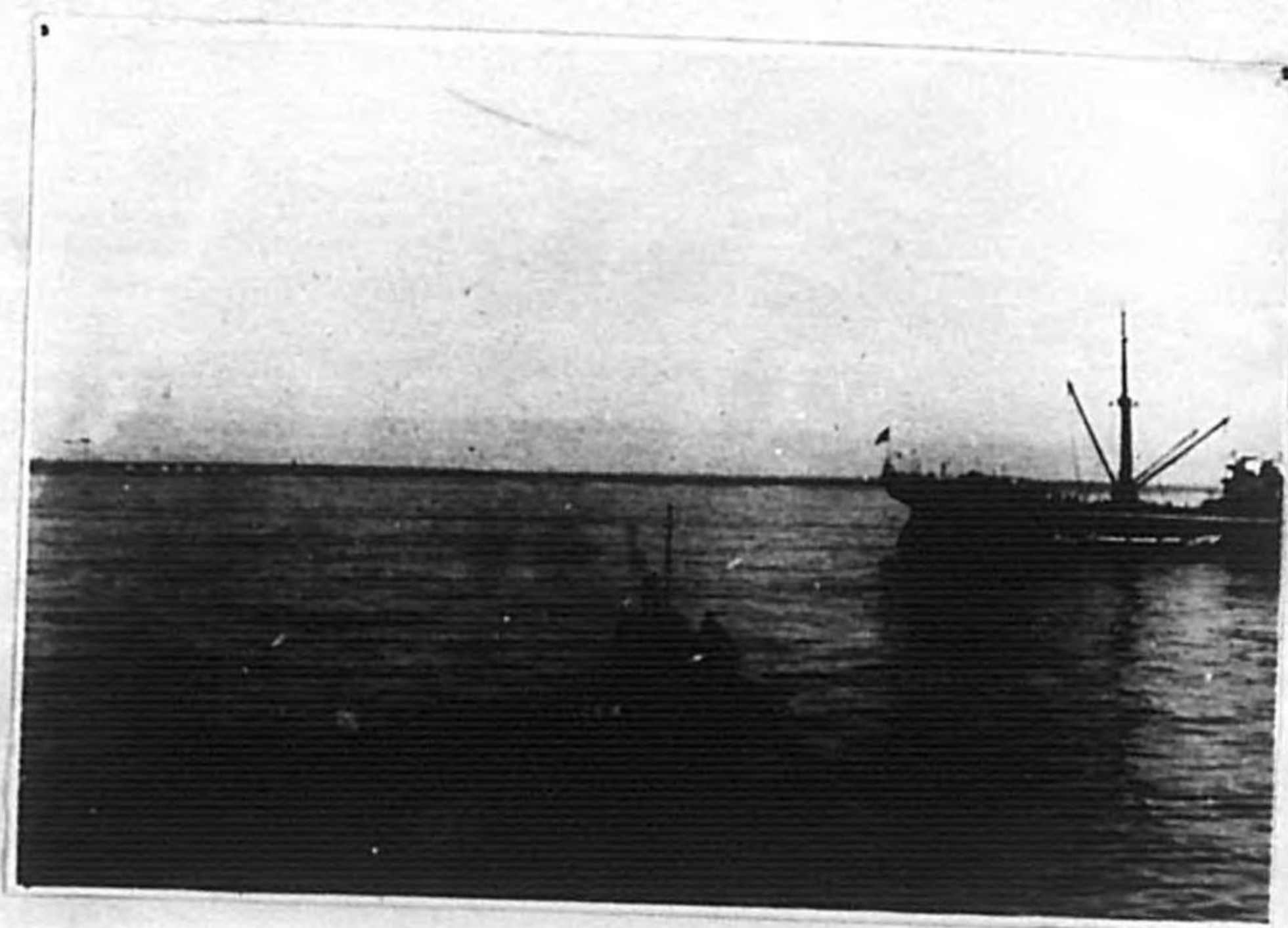


附圖第五

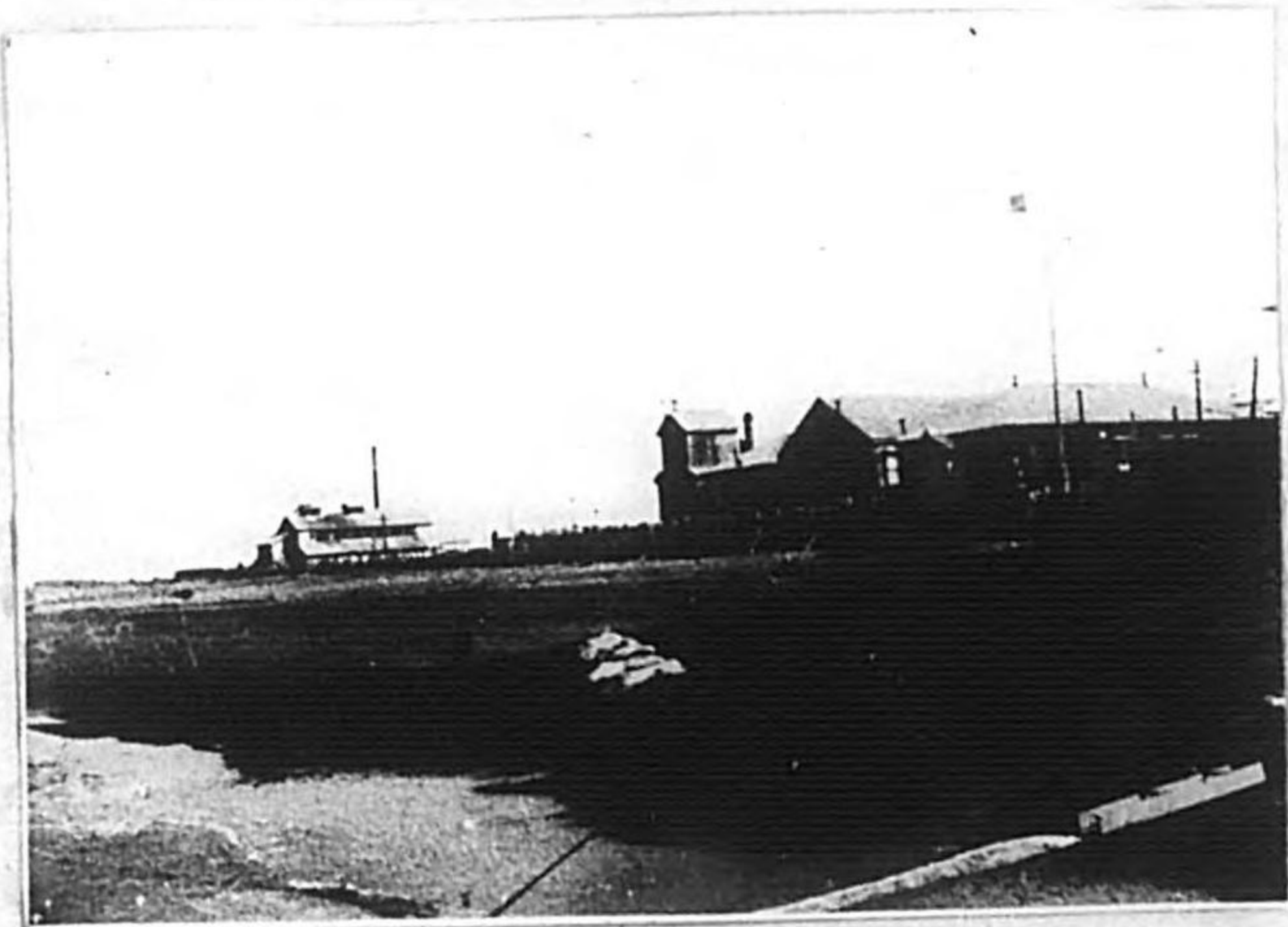
望遠方地レパンコ



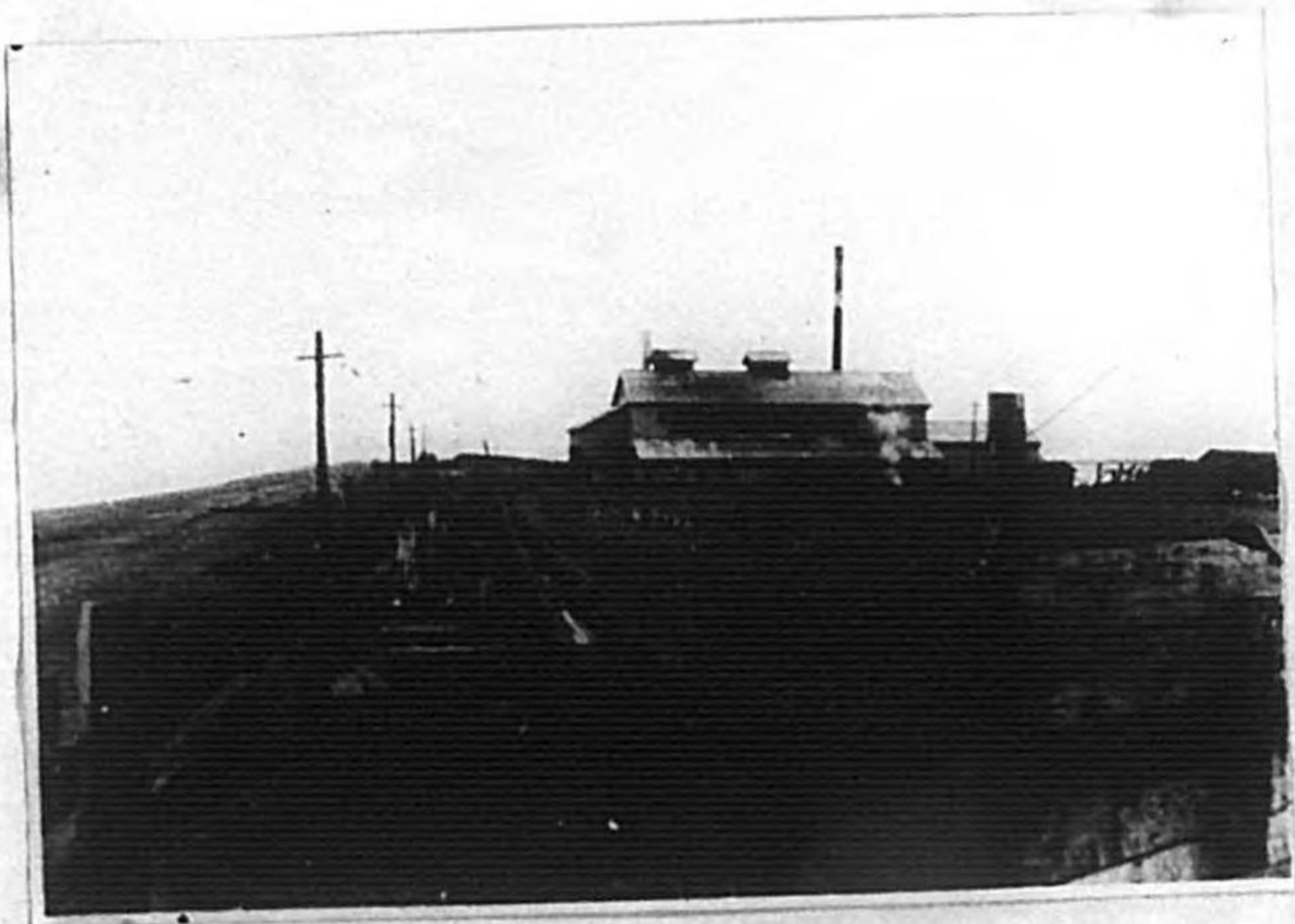
望遠方地レパンコ



況状、浜砂方地カシキ北
(シナハ物建在現)

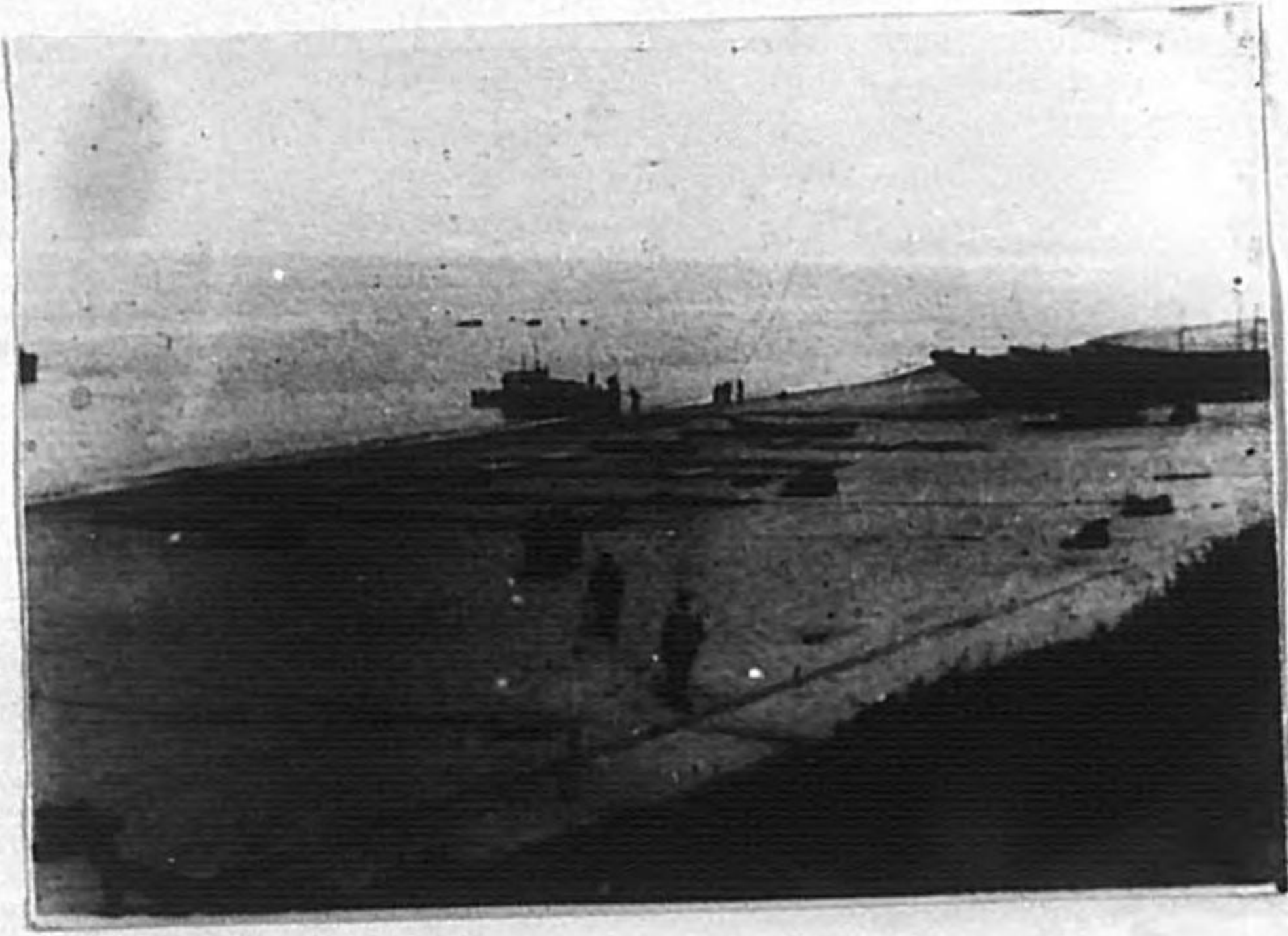


況状、浜砂方地カシキ北
(シナハ物建在現)

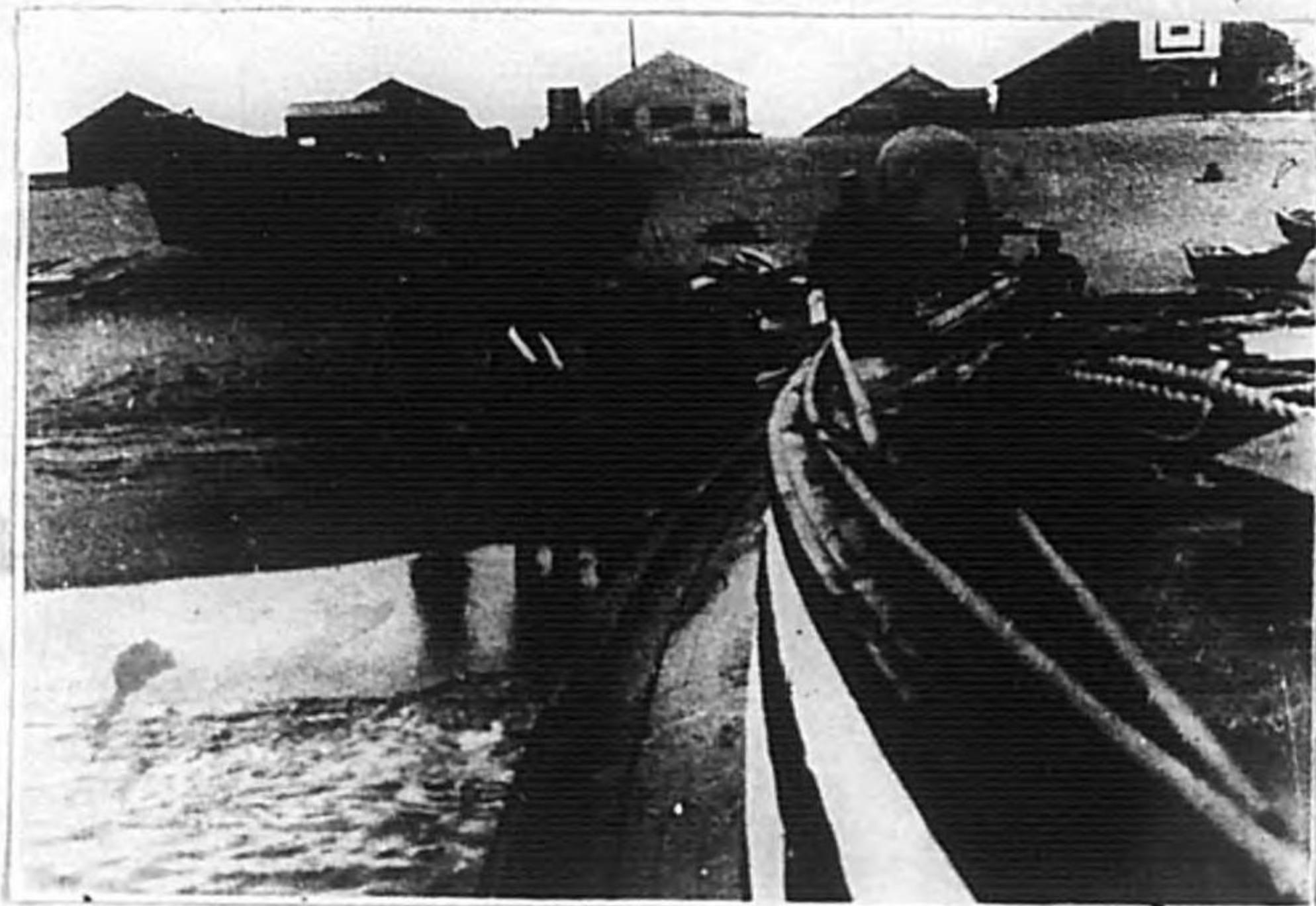


附圖第六

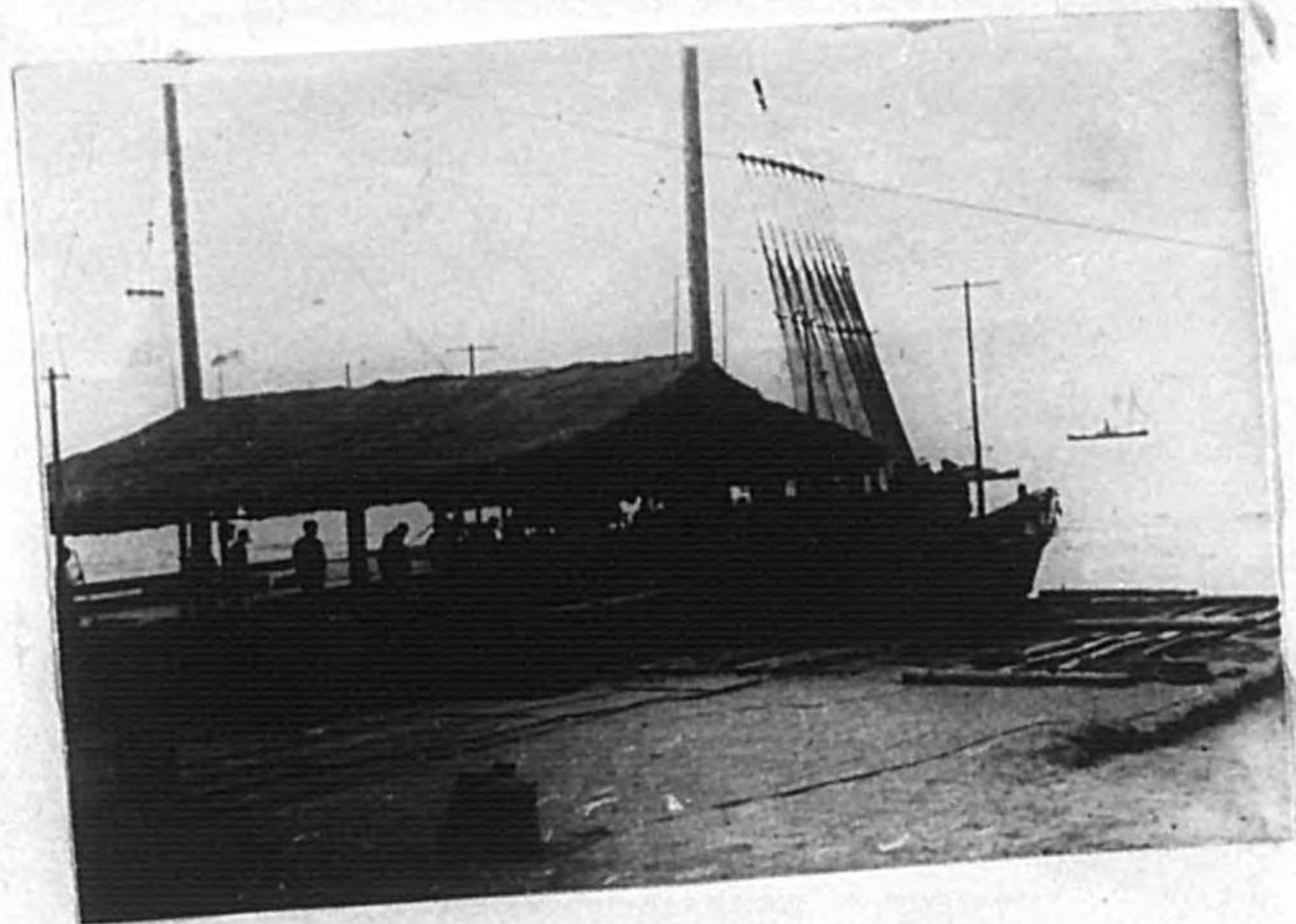
(一ノ其) 況狀ノ浜砂方地ヶイヤ



(二ノ其) 況狀ノ浜砂方地ヶイヤ



449
(三、其) 帆状、決碇方地ナイヤ

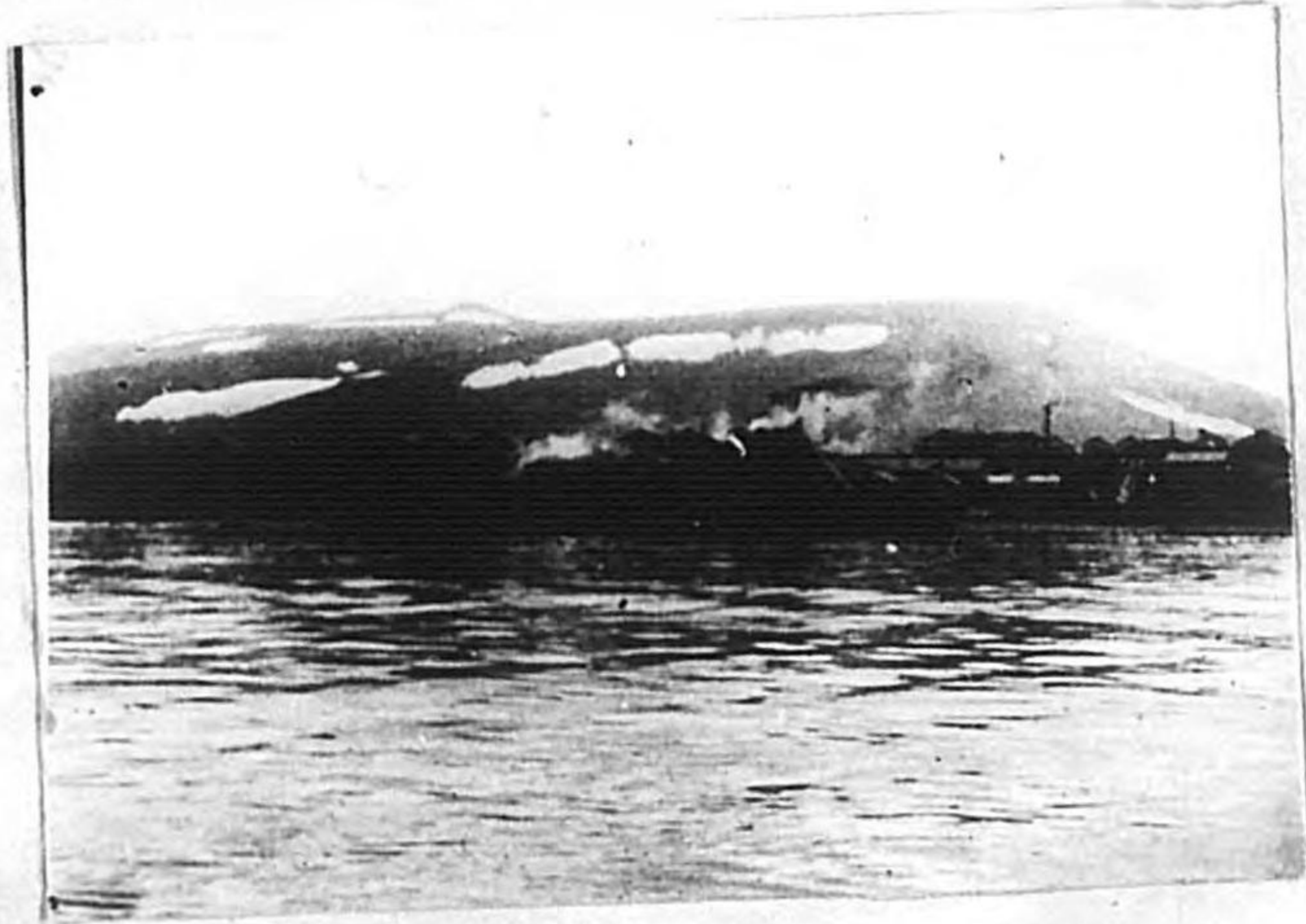


附圖第七

(一、其) 岸非方地イノルゼオ



(二、其) 岸沿方地イノルゼオ



714
(三) 其) 岸沿方地イノルゼオ

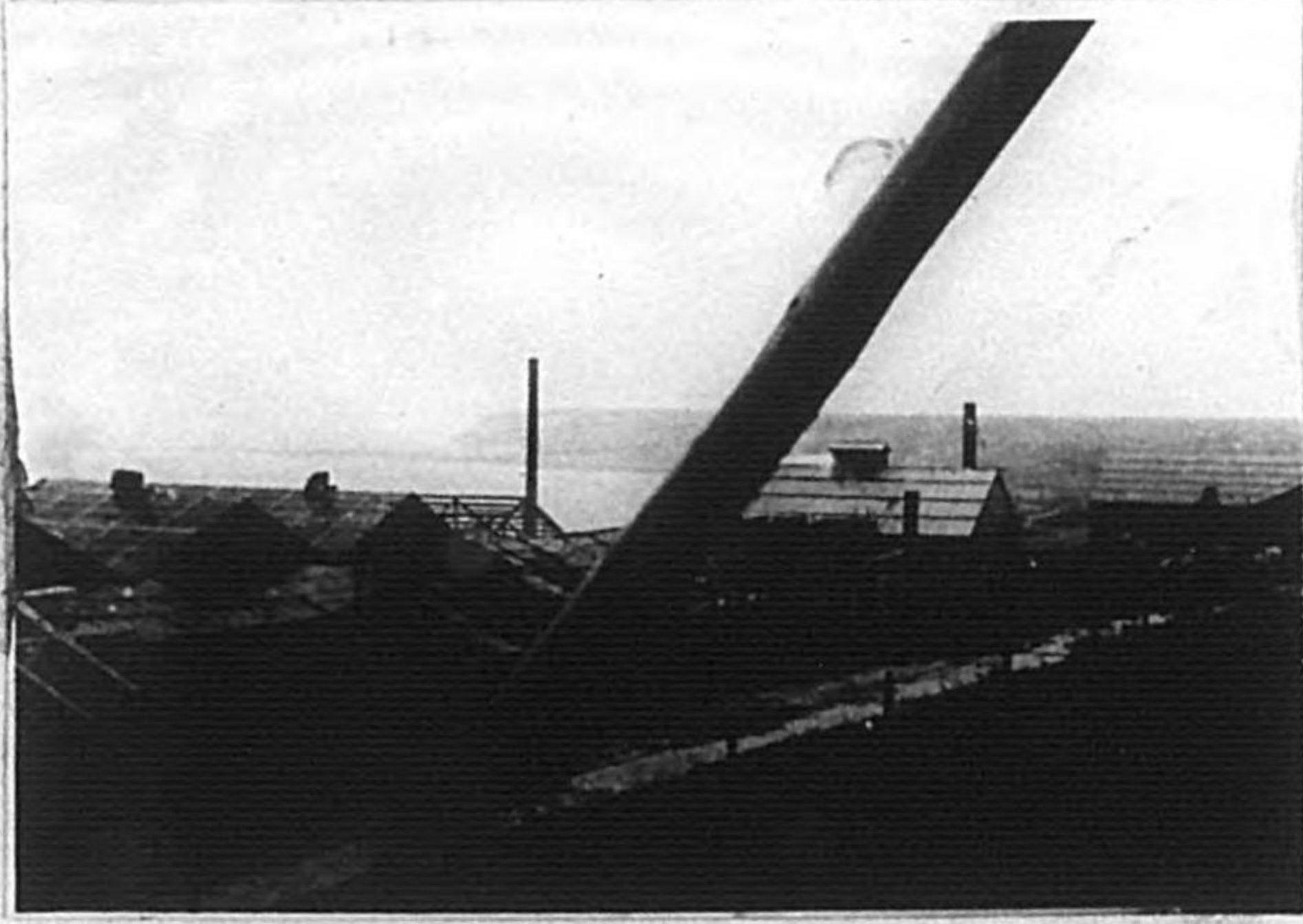


(四) 其) 岸沿方地イノルゼオ



附圖第七

(五ノ其)岸沿方地ノルセ和



第三章

勘察加羊島ノ農業

註(河トロハグロフス)ノ市新聞記事ニ依

ル

勘察加州ニ於ケル播種面積増加ノ跡ヲ

見レハ同州ノ農業ガソビエソト化後漸ク

發達ノ緒ニ就キタルコト明カナリ即チ

左ノ如シ

播種面積(單位「ヘクタール」)

一九二二年	一九二五年	一九二七年	一九二八年	一九二九年	一九三〇年
一四、七	七〇	八五	一一	一五〇	三〇〇

一	ス	二	小	勘	一	一	一	一	一	一	一	一
〇	ル	至	麥	察	九	九	九	九	九	九	九	九
ヘ	モ	り	燕	加	三	三	三	三	三	三	三	三
ク	ノ	其	麥	=	九	八	七	六	五	四	三	二
夕	ノ	ノ	其	於	年	年	年	年	年	年	年	年
山	ミ	播	他	テ	一	一	一	一	一	一	一	一
ニ	=	種	ノ	ハ	一	一	一	一	一	一	一	一
違	テ	面	穀	馬	一	一	一	一	一	一	一	一
シ	モ	積	類	鈴	三	二	二	二	二	一	一	一
カ	一	ハ	モ	薯	二	三	二	三	〇	七	四	〇
ム	九	コ	耕	及	一	七	六	四	三	=	五	四
々	三	ル	作	野	一	五	〇	=	=	八	=	七
カ	七	ホ	セ	菜								
河	年	一	ラ	ノ								
流	=	ズ	ル	外								
域	ハ	=	ル	裸								
	二	屬	ル	麥								

ノ農業地方ニハ製粉所ヲ必要トスルニ
至タルヲ以テ一時間製粉能力ハ
凡ソヘルメル式製粉機一臺既ニ
カム子ヤツカ力經由「ミ」コウ
ラト本年ヨリ製粉開始セラレ
ト

主要作物別一ヘクタールノ最近ニ年間ニ於ケル
作物別一ヘクタールノ最近ニ年間ニ於ケル
ノ如シ(單位「ツエントネル」)
收穫高ヲ示セハ

十月革命前年	一五・三	一六・〇	西・五	一六・〇
(トリツカカ村)				
ベズボージニク	一七・七	一六・三	一六・九	一七・三
(ミリコウオ村)				
				一九・〇

未 族 一八五
 (キルガニク打) 一九〇
 一六七
 一八六

收穫高ノ増加ニ伴ヒ「コルホ」ズノ牧入
 亦逐年増加シツ、アリテ例ヘバ「エリゾ」
 ウ「オ」村ノ農業「アル」テ「フ」チ「イ」リ「チ」ヤ
 ノ一九三三年度收入ハ一〇七、六八留ナリ
 リシモノ一九三九年ニハ四、七四六留ト
 ナレリ

勘察加州當局ハ最近数年中ニ州内ニ於
 ケル野菜及馬鈴薯ノ自給自足ヲ確立ス
 ル爲是等作物ノ栽培ヲ奨励スル一方歐
 露ヨリ農業「コル」ホ「ズ」移民ノ誘致ニ努
 ヌ居リ本年「カム」チ「ヤ」ツ「カ」河
 流域農業地

方ニ移住スルモノニ四家族アリ
尚ミリコウオ村附近コヒトカ河岸ニ
寮加農事試験場アリ場長以下九名ノ農
事専門家各種作物ノ試作研究ニ從事シ
居レリ

第四章 勘察加半島石炭及泥炭
 第一章 石炭

勘察加半島石炭及泥炭
 依レハ調査済ナル海岸地方ノ埋藏量
 今後中部地方ノ調査ヲ稱セラル、以テ
 其ノ埋藏量ハ更ニ増加スベシ、
 現在判明セル産地ヲ擧ゲレバ次ノ如シ
 (イ) 東海岸ニ於ケルモノ
 ヲナスカムヤトス
 アナドイル
 コル
 モル
 ジロワヤ湾
 ヲヤ湾

サ	=	層	過	コ	以	ハ	ペ	ボ	ハ	キ	ク	ス
ガ	在	ハ	ギ	ル	上	ラ	ン	ド	イ	ク	ル	ド
レ	ル	漁	ズ	ク	ノ	ナ	ジ	カ	リ	ク	ト	ワ
ン	モ	業	ク	炭	如	ノ	ゲ	ル	ユ	ク	ゴ	ヤ
ヨ	是	ゴ	ル	坑	キ		ル	ゾ	ウ		ロ	湾
リ	等	ン	ト	及	ル		ナ	ウ			ウ	西
ノ	ゴ	ビ	ゴ	ア	モ		ヤ	オ			オ	海
移	ン	ナ	ロ	ナ	採							岸
入	ビ	ナ	ウ	ド	堀							=
炭	ナ	ト	オ	イ	ノ							於
ヲ	ト	ヨ	及	ル	ノ							テ
使	ト	リ	キ	炭	行							ハ
用	ハ	数	ク	坑	ハ							
シ	浦	料	ク	ノ	レ							
ツ	塩	ノ	ク	一	居							
、	及	地	ノ	部	ル							
在	ビ	奥	炭	ニ	ハ							

一九四〇年澳業用トシテ移入コ要スル
 石炭ニ十四万噸ニシテ之ガ輸送ニ數十
 隻ノ船舶ヲ要スル現狀ナリ石炭ノ埋藏
 量豊富ナル拘ラズ其ノ採掘活潑ナラ
 ガルハ甚察加開發ノ任ニ當ル甚察加株
 式會社(A.K.C)ガ主カヲ澳業ニ傾倒シ他
 ヲ顧ル暇ナキ爲ナリト
 主要炭田ノ狀況ヲ記述スレバ左ノ如シ
 (1)
 ア¹アドイル炭坑ニ於ケル一九
 A.K.O.ノアルトドイル炭坑ニ於ケル一九
 三九一、一九四〇年度採炭計畝ハ五千噸
 計畝ハ五千噸ナルガ三月一日現在採炭
 量六九〇一噸ニシテ年計畝ハ一三八〇
 一¹ニ當リ半年ニ滿タサルニ年計

一 萬噸ヲ採掘シ得ベシ「ア」ナドイ、ル炭
 良質ニシテ太平洋岸ニ於テハ發熱量ニ
 於テ「ガ」レ「ン」炭ニ劣ルノミナリ
 「コ」ル「コ」炭坑ノ始メテ報道セラレタルハ
 一八九八年ナルガ一九〇三年技師ニ人
 勞働者五十人ヨリ成ル米人ノ一団採炭
 事セルコトアリ其ノ後商船及艭
 獸獲船ニシテ必要ニ應ジ「コ」ル炭ヲ使
 用セルモノアリ地方住民ガ其ノ需要ヲ
 満スル爲テリナク「村」附近ニ於テ採炭ヲ
 開始セルハ一九〇四年以降ナルガ計画

的採掘ノ行ハルヲルハ一九一九年以
 末十リ面シテ同年ヨリ一九二〇年
 十一年間ノ採炭量約十萬噸ニシテ
 大採炭量ハ一萬五千噸ヲ越エズ
 埋藏量ハ不完全資料ニ依レバ數百
 噸稱セラレ炭ハ比較的淺キ地下ニ
 露天堀ニ依ルモ年産四萬噸乃至
 噸ヲ擧ゲ得ヘシAKDノ一九四〇
 採炭計畝ニ萬七千五百噸ナリ
 コルコ炭ハ褐炭中ノ上等品ニシテ
 量四三〇カカリ灰分ニバシセシ
 止水分一四一八バシセシ
 六三「バ」セシ
 心地トノ交通路ハ海洋ニシテ浦塩ヨリ

三	居	岸	=	埋	在	海	區	ペ	ペ	四	リ	三
=	ル	=	巨	藏	り	岸	ノ	ン	ン	料	九	五
年	一	打	り	量	炭	ヨ	中	ジ	ジ	ノ	〇	〇
地	事	々	石	ノ	層	リ	心	ン	ン	地	〇	〇
質	=	上	炭	大	ハ	一	地	ス	ス	臭	キ	料
學	依	ゲ	ノ	ナ	数	五	カ	キ	キ	=	〇	〇
者	リ	ラ	中	ル	十	料	メ	山	山	在	區	ペ
イ	テ	ル	ヲ	ハ	平	ノ	ン	炭	炭	リ	中	ト
グ	モ	、	流	ウ	方	ウ	ス	層	層		心	ロ
ナ	推	炭	レ	ゴ	料	ゴ	コ	ハ			テ	ハ
ト	察	塊	住	リ	ノ	リ	エ	ペ			リ	ヴ
フ	シ	ヲ	民	ヤ	地	十	村	ン			チ	ロ
ハ	得	燃	ガ	河	域	ヤ	ヨ	ジ			ノ	フ
面	ベ	料	暴	ガ	=	河	リ	ン			村	ス
積	ク	=	風	一	擴	上	=	ス			ヨ	ノ
一	一	供	ノ	料	マ	流	五	キ			リ	ノ
五	九	シ	際	余	リ	=	料	山			二	日

(4)

付ク海底ヲ調査セバ船ヲ更ニ海岸ニ近

スドワヤ湾炭層

在リ()炭層ハ同湾ニ注グワヒク河地地方

ニ在リ海岸ヨリ一五ノ至ニキル地

ニ於テ炭層露出ス炭層ノ厚サ〇.七五ノ

至一米ナリ一九三八一〇.七五ニ於

テ地質調査隊ハ埋藏量及炭質十モ工業

的價値アルコトヲ認メタルヲ以テAK業

ラガレシ工業部ハ一九三九年九月末技師

開祭作業ヲ開始セリ下ニ調査隊ヲ派遣シ

(5)

アナドイル區ウゴリ十ヤ炭坑
 九三八年十月以來ソ政府ノ委囑ニ依リ
 北洋航路管理局ノ石炭調査隊作業シ居
 レリ其ノ目的ハ第三次五年計画期中ニ
 堅坑ノ操業ヲ開始シ北洋航路就航船ニ
 石炭ヲ供給スルニ在リ堅坑建設ノ爲投
 セラレリソル資金一千万留築港
 費トシテ追加支出セラレクニ金額一千
 万留ニシテ目下掘鑿作業中ナリウゴリ
 十ヤハ十五ノ住宅食堂俱樂部倉庫ヨリ
 成ル一小勞働村ヲ形成スルニ至レリ

第二

泥炭

勘察加州ハ泥炭ニ富ミ泥炭層ハ東西両
 海岸ノミナラズ「カムチヤソカ」河流域ニ
 在リ其ノ埋藏量ハ「ソ」聯學士院及中央泥
 炭試験所ノ資料ニ依レバ乾燥泥炭三十
 億噸以上ニシテ泥炭層ノ面積ハ九十萬
 へ「夕」リ殊ニ西海岸ニハ「オ
 ゼル」ナ「ヤ」澳業「コン」ビナ「リ」北
 「子」ヤ「河」ニ至ル延長五〇〇「キ」ト
 幅員數十「キ」トノ泥炭層アリ厚サ五
 米ニ達ス一九三八年勘察加ニ於テ泥炭
 ノ採掘乾燥及使用ノ可否ヲ科學的及実
 地ニ試験證スル為「ミ」コ「ヤ」ン「澳」業「コ」ン「ビ」ナ

業「ト」地方（「ボ」リシヤ「河」岸）「ア」バ「澳」
 業「ト」レ「ス」ト「所」属ノ「泥」炭「試」験「所」設「置」セ「ラ」
 レ「同」年「三」十「万」個ノ「泥」炭「煉」瓦（「普」通ノ「煉」
 瓦ヨリ「稍」大「型」）採「掘」シ「内」十「万」個ヲ「乾」燥
 シ「之」ヲ「燃」料ニ「供」スル「爲」企「業」官「廳」及「部」落
 住「民」ニ「分」配「セ」ル「ト」コ「ロ」成「績」良「好」ナリシ
 ヲ「以」テ「同」地ニ「泥」炭「煉」瓦「五」千「乃」至「六」千「個」
 ヲ「收」容「シ」得「ル」特「別」乾「燥」室（「風」力ヲ「利」用セ
 ル「モ」ト）ニ「棟」ヲ「設」ケ「又」乾「燥」泥「炭」六「五」立「方
 米」ヲ「貯」藏「ス」ル「爲」倉「庫」ヲ「建」設「セ」リ
 西「海」岸ノ「泥」炭ノ「發」熱「量」三、五、〇、〇「カ」ロ「リ
 一」ニ「レ」テ「乾」燥「セ」ル「白」樺ノ「發」熱「量」ヨリ「高
 ク」灰「分」ハ「四」乃「至」八「バ」一「セ」ン「ト」ナリ
 斯ノ「如」ク「泥」炭「乾」燥ニ「関」スル「科」學「的」調「査

一段落ヲ告ゲタルヲ以テ「A K O」澳業ト
レストハ澳業人民委員部ニ對シ一九四
〇年「ミコヤン」澳業「コンビナート」ニ泥炭
採掘事務所開設方請願シ且「ミコヤン」
「ガ、キクク」ノ三澳業「コンビナート」
トニ於テ泥炭ノ工業的採掘ヲ開始シ一
九四一年度ヨリ燃料トシテ泥炭ヲ使用
スル筈ナルガ其他ノ西海岸ハ「コンビ
ナート」ニ於テモ泥炭ノ採掘開始セラ
ルヘシ尙一九四〇年度採掘計畫五方立
米ニシテ主トシテ官廳ノ燒料及「ウイ
子」蒸氣汽罐粕工場ノ燃料ニ供セラ
ル

管ナリ

東海岸ノ泥炭ハ品質西海岸ノモノニ比
シ劣リ發熱量低ク三〇パーセントノ灰
分ヲ含有シ燃料トシテハ不適當ナリ

第五章

沿海州方面軍事昭和十五年
調査追加

第一款

(1) 兵力

沿海州地方

ス
ネ
リ
マ
方
面
ハ
コ
フ
ガ
マ
ノ
本
部
ニ
テ
官
轄

四
ニ
号
澳
区
ノ
北
四
七
七
料
ニ
ア
ル
ネ
リ
マ

港
ニ
出
所
ア
リ

隊長大尉級(ニ七才位)

一名

副長

一名

海上監視將校

二名

兵約一名

無線電信局アリ

第 二 款

(1) 兵カ
オ不ツク地方

三八二号渙区西南入。米、地莫臨

時屯所ニ疎アリ

隊長中尉級ケセフ(ニ六才位)兵文白

ウリヤ村屯所隊長中尉級リツ子ン(三三

才位)

(2) 不不ツク村兵舎

今年増加シラルモ、如ク將校少佐以

上一。名位駐在シ兵約一。名ナル

モ、ト恩蕙セラ

第 三 款

(1) 兵カ

四一六号渙区、東北方一。米ニ兵舎

ウリヤ地方

第

(1) 四款
兵カ

適 尚 ア ア ハ 依 オ 隊 二
ス = 一 六 号 澳 区 裏 手 湖 水 ハ 着 水 場 =
ギ ジ カ 河 ロ コ ー シ ュ カ 村 = 司 令 部 ア リ
カ 河 ロ コ ー シ ュ カ 村 = 司 令 部 ア リ
令 官 及 参 謀 駐 在 湾 内 三 ヶ 所 = 屯 所
カ 河 ロ コ ー シ ュ カ 村 = 司 令 部 ア リ

(2) 航
空 機

ハ バ ロ フ ス ク ナ ガ イ ワ 間 定 期 郵 便 飛 行
ア リ 途 中 ク ワ ト イ 河 = 着 水 ス ル ヲ 認 ム
ア ヤ レ = 飛 行 場 ヲ 有 ス
一 六 号 澳 区 裏 手 湖 水 ハ 着 水 場 =
適 ス
ギ ジ カ 地 方

依 リ 住 來 頻 繁 ナ リ
オ 木 ツ ク 警 備 隊 本 部 ヲ 軍 用 川 崎 船 =
隊 長 中 尉 級 シ ナ エ ル ビ ン (二 四 才 位) 兵 四
二 棟 ア リ

(3)

要塞

ナヤハシ村ニ水上機、着水地アルモノ
ノ如シ七月中旬水上機西方ヨリ東方ニ
飛來セルヲ見ル

施設ハ見ラガルモ「ギ」ジキンスキ「湾」一

帯ハ要塞地帯ニシテ各屯所ニハ不造兵

舎アリ司令部ハ大規模ノ無線電信ヲ有

シ各屯所ニハ携帯無線電信機設備ヲ有

ス

第六章

勸察加半島西海岸
昭和十五年度調査追加

第五款

(1) 兵力

ソ
ポ
チ
又
イ

河口南五料 = 木造ノ永久

的兵舎アリ

隊長大尉ブリノフ(三五才位)

外三名

中尉エカロウ(ニセ才位)

兵約一五名

(2) 海軍

砲艇三隻級二隻巡航シソノボチ又イ

河ニ碇泊シ小型モト夕ボトニテ入

月二十六日ヨリ三十日頃迄測量ヲ實施

(3)

其 他

(1) 六七七號 澳區南方沿岸約一。料ソ一ボ

十又イ河口北方三十八軒ニ屯所アリ

並鉛算三棟 其 他ニ棟ノ建物アリ

隊長中尉ブルベフ(三。オ位)

兵約一五名

(2) ブチ子島ヲ根據地トセル警備船(約六。

屯速力一五哩)第一ニ。號及第一ニ一號

ノニ隻アリ月ニ回南下シ近海ノ警備セ

ルヲ認ム

砲ヲ裝備シアルモノノ如シ

乗員一四十一名ナリ

又本年ニ於テ北方ニ物質ヲ運搬シアル

第六款

(1) 兵力

モ、ノ、如ク、曳航船、航行頻繁ナリ

イ、ノ、チ、マ、地方

チ、ノ、チ、ア、河口南三村、地、莫、ニ、三階建、不

造兵舎アリ

隊長大尉「ルイボン」(三ニ不位)

中尉「マルソリ」(ニ六才位)

兵約三〇名

(2) 航空機

着水可能ニシテ本年ニ回飛来ヲ見ル

(3) 施設

望樓ヲ兵舎前面ニ設備シ砲隊鏡ヲ有ス

(4) 砲艇

其、他發動機付川崎船「モ」ト等

(三) 此無線設備ヲ有スニ隻

第七

(1) 兵 款

(5) 其

(4) 所
ア
リ
イ
ナ
ヤ
河
口
南
三
料
ノ
地
真
ニ
警
備
隊
也

名 隊長 大尉
モ
ル
ダ
ニ
ハ
ニ
七
八
才
位
兵
約
三
十
四

三 間
ノ
四
間
ノ
天
幕
舍
ア
リ
地
真
ニ
大
ナ
リ

カ
セ
ニ
ニ
号
澳
区
北
方
一
三
料
ノ
地
真
ニ
大
ナ
リ

校 大尉級ノモ
ノ
ニ
名
滞
同
シ
來
ル
ヲ
見
ル

今 年 度 西 海 岸 司 令 ト 稱 ス ル 少 將 級 ノ 將

テ 大 尉 級 數 名 駐 屯 ス 西 海 岸 北 方 ノ 重 要 地 真 ニ シ

ヲ 有 ス 他

隊長大尉数名 兵約三〇名
海軍

一九四〇年六月四日午後七時二十五分

ソ聯駆逐艦一隻三哩沖ヲ北上セリ

六月六日午前八時ソ聯快速艇二隻三哩

沖北上セリ

六月七日午後三時ソ聯駆逐艦一隻南下

ス カルトコロワ地方

第八款

兵力

七三三号澳区、南方約三七〇米、地真

二棟建物アリ

隊長少尉クズネツオフ(三位)

七三三号澳区北方約一五〇〇米、地真

(2) 航空機
 駐在マ
 隊長中尉「モ
 ルダン」(八才位)兵五十六名

八月十九日午後四時水上機二機北方
 飛去ス
 八月二十日午前八時水上機一機北方
 低空飛翔セリ
 (3) 其他

ソ聯側七三五号澳区沖合約二七〇米
 九月一日ソ聯側汽船五〇噸級
 毛、一隻投錨シ翌二日小型モ「夕ボ」
 卜三隻ニ依リ同地方沿岸一帯ニ約四〇
 〇米ノ間隔ニテ海岸ヨリ二一三〇米ノ
 海底調査ヲナス

第

(1) 九款
兵力

「
ン
パ
」
地方

七四三
号
澳
区
南
方
ニ
料
リ
ユ
ー
リ
工
場
ニ

駐
在
ス

隊長
中尉
「
サ
ブ
ラ
ー
ソ
フ
」
(三五才位)

兵
四
一
五
名

(2) 航
空
機

夏
期
数
度
南
方
ヨ
リ
北
航
シ
八
月
下
旬
一
台

ガ
南
方
ヨ
リ
北
航
ノ
途
中
「
ン
パ
」
河
ニ
着
水

レ
北
方
ニ
飛
去
ス

第

(1) 十款
兵力

「
オ
ロ
ス
コ
イ
」
地方

所
在
「
ボ
レ
オ
ウ
村
」
「
オ
ロ
ス
コ
イ
」
地方
第一

澳
場
ヨ
リ
距
ル
東
方
一
。
料

隊長 上級大尉
自稱ス(三才位)
本年ニ至リ

(四) 右隊長以外ニ佐官級ノ隊長ガ居ル
イ莫アリ主トシテ國內ノ警備ヲナス
所在ニシテボリスカヤインナグラ
リナヤアルテリ駐在

(三) 亦ロシア地方第一号漢工場ヲ距ル南
方四料ソノ聯國答漢場(七六八号漢区)
隊長上級大尉
トテ國境外務警備關係處理ス

(二) 航空機
基地不詳但單葉水上偵察機三機小型複

(3)

要塞

葉木上偵察機一機六月上旬ヨリ切攀時
機迄一日數回或ハ隔日ニ頻繁ニ南北ヲ
往復レソ一ボレスカヤ駐屯所裏オロス
工イ河ニ着水ス又三機編隊ニテソ一ボ
レオ村上空ヲ飛翔スルコト多シ

(4)

海軍力

有線無線電信電話ノ設備アリ
三門機銃三ト推察ス
モ可成ノ軍備充實レアル模様ニテ大砲

(5)

其他

設備ナク不明ナルモ駆逐艦「キ」ロ「フ」号
澳期中三回寄港ス

第十一款

(1) 兵力 所在 七六八澳区

隊長 大尉 警備隊 (三五才位)

(2) 航空機 基地 澳場 來タリ (四名)

飛行艇 (郵便機) 往復ス

爆撃機 三機 編隊 飛來 (大月十八日 双發)

林丘 陵上 位置 ス 標高 約 二〇〇 米 森
尚 小型 タク 一 台 アリ 快速 艇 八 三 隻 ア
リ オロ ス コ イ 河 中 エ 碇 泊 シ 海上 警備 ヲ
為 ス

河ニ着木セル模様ナリ

(3) 要塞ニナシ
(4) 海軍力ニ不詳

但漢期間中曳航セル艦艇ヲ譽グレバ

駆逐艦(約八〇屯)一隻キロフ号ト推

定サレルモノ及沿岸警備艇(約三〇屯)四

隻時速ニ〇哩以上乗組員一ニ三名

裝備機銃ニ(銃器ヲ有ス)ノ航行ヲ認ム

尚隊長用ノ舟艇ニ木兵数名乗船(裝備不

明)ノモノ曳航レアリ

(5) 其、他

八月三十一日測量隊一行四名(陸路三名

海上)ムボトニテ一名)測量機寫真器

等ヲ携行シ陸上測量シ南下ス

第十二款

(1) 兵力
プロイム夕地方
在所「キムチク」村ニ駐屯ス屋舎ニ棟

隊長海軍大尉「グロツエ」(三ニ才位)
推定兵員 一五十一六名

(2) 航空機
六月ヨリ八月末日迄ニ民間飛行機(單發)

「ナツク」村近郊ノ湖沼ヨリ發着セリト
「ハネム」機ハ「一五」機飛來ス内「一」機

「ナツク」村近郊ノ湖沼ヨリ發着セリト
認「ナツク」ル

(3) 要塞
詳細困難ナルモ設備ナキモノト推定

(4) 海軍
ス「ナツク」艦艇ノ來航ヲ認メズ

設備ナシ艦艇ノ來航ヲ認メズ

(5) 其

第十三款

(1) 兵款

有線無線ノ設備アルモ、如シ
海上ハ發動機船ニ依ル外交交通機関ナシ
陸上交通トシテ波打際ノ步行ノ外沿岸
ヨリ約三十五軒ノ丘陵森林地帯ニ道路

アル模様ナリ

ウトカ地方

カニ所在第七九五号澳区(ソ联合国管)

隊長陸軍中尉モスコフ(ニ六才位)

駐屯推定兵員一〇名以上

八〇入号澳区

隊長陸軍中尉チエレバートフ(ニ七才位)

副官(イリイツテ(ニ四才位))

兵七名(内水兵二名)

八二三号澳区

隊長陸軍中尉「バナヤロフ」(ニ夫)

ボリレエレツキ

駐屯兵員不明

(2) 航空機ニ基地ナレ

航空郵便機澳期ヲ通シ五回往復ス

入。八号澳正後方ノ沼ニ水上機着水ス

ルコトアリ

(3) 要塞ニナレ

(4) 海軍力

詳知困難ナルモ月別巡航碇泊数左リ如シ

七月十二日 エル型潜水艦第五号 南航ス

八月一日 快速艇ニ隻 北航ノ後南航ス

六月一日 夜間碇泊ニ回

(5)
其

七月十三日騎兵約六〇名八一三號澳區
迄演習に來タル
七月十五日ヨリ數日間八一八號澳區南
方地區ニ於テ大砲、實彈射、實施ス
又同澳區南方地區ニ於テ澳期間通ジテ
機關銃實彈射擊ヲ實施レアリ
七月二十日ヨリ約五日間八〇四號澳區
ニ於テ演業用材ニ非ザル大長木材ヲ多
數揚陸セリ
八一八號澳區(北キレカ閉鎖澳區)後方地
區ハイコロ村附近一帯ニハ相當ノ軍事
施設アルモ、如シ

第十四款

南「キ」カ地方

(1) 兵力所在地八三二号澳区(AトO工場)

木造建築二棟

天幕二張

隊長陸軍大尉「ロシマ」ノ「フ」(三〇才位)

外兵二〇名

(2) 航空機二基地ナシ

但八月月中旬以後水上機二機編隊ニテ南

北ニ向ヒ飛翔スル事屢々見受ケタリ

(3) 要塞二ナシ

(4) 海軍力ナシ

(5) 其他

ホリシヤ「ア」河口南岸ニ沿ヒ立標ニ三

基アリ

第十五款

(1) 兵力ハ八三二号八三三三三三号兩澳区、中間附

近見張所ヲ有ス

隊長陸軍中尉カミンソンスキ(ニ三才)

外兵三名

(2) 航空機

基地不明ナルモ澳期末ニ至リ水上機、

通過ヲ見タリ

ホルシエレツキ「及「オゼルノイ間、往

復飛行ト推定ス

(3) 要塞ハナレ

(4) 海軍力

不明ナルモ八月十五日砲艇ニ隻澳場前方ヲ通過ス速カ一七哩位ナリ

(5) 其他

八五三澳区「オハラ」村附近ニ一部落建設

レ夕模様ナルモ詳細ナラズ

第十六款

(1) 兵力「所在」ゴセゴチ「ク」村

隊長陸軍少尉「ボグ」スラウ「エイ」(ニハオ位)

一九三九年駐屯推定兵員一〇名内外

(2) 航空機「基地」ナシ

但シ八五五号澳区背後五〇〇米ノ地奥

ニ数年前水上機ノ着水セシ湖沼アリ

(3) 要塞「附近」ニ認メズ

但シ「ゴセ」ゴチ「ク」河口ニハ步哨ノ天幕

小舎「アリ」

又八五七八五八号西澳区ノ中間沿岸ヨ

(5) (4)

其海

見張所
一五〇〇米ノ高台ニ不道建築物ノ

昭和十五年
於テハ例年ノ如ク著業

當時ヨリノ飛行機ノ飛來スルコトナク

八月十四日水上機ニ機海岸線ニ沿ヒ南

下シタルモノ始メナリ

漢期中飛來月別機数左ノ如シ

八月三回

九月二回

何レモ同一機種ニシテ機ノ前後ニ機銃

ニヲ裝備シタル白色草蓑ノ水上機ナリ

第十七款

昭^レ和十四年迄ハ東三地方ニ包含サレタ
ルモ昭^レ和十五年度ヨリ独立シ一地方ヲ

(1) 兵力^ハ所在^ニオゼルノイAKO工場ニ隣接

ス隊長陸軍大尉^フエセ^ンヨ^ハ三七八^ノ位

兵力^ハ相當多数駐屯^シ居ルヲ^レク^テ常ニ軍

(2) 航空機

水上機^ハ偵察機^ト推定ス普通ニ機編隊時

ニハ軍機^ハ快晴^ノ場合^ニ限リ週ニ三回^ト

着^ル水場^ハオゼル^ノイ河口^ト或ハAKO工

リ^レ工^シル^ノキヨリ往復飛行^ヲナス

場裏、沼又八川、如レ

(3) 要塞

オゼルの工場附近ニハ要塞ヲ

レキ施設ヲ認メズ

不ゼルノ河口ヲ約スル港ニソ聯船舶

ノ奇港スルモ近年著シク頻繁ナル事

實ニ微シ同河口以南ニ何等カ設備中ノ

如ク推定ス

(4) 海軍カハ不詳ナルモ左記ノ聯軍艦巡航ス

駆逐艦 一隻 數回

潜水艦 三隻 二回

砲艦 三隻

(5) 其他

近年ノ聯汽船ノ配船數富ニ増加シ來リ

昭 和 十 五 年 度 = 八 十 四 年 度 二 倍 近 ク
= 達 ス
殊 々 從 來 認 め ら れ 普 通 貨 物 船 = 非 常 船
王 子 汽 船 主 妻 々
散 見 ス

第七章

勅 加半島東海岸
昭和十五年 度 調 査 追 加

カムサツカ河地方

第十八款
一 軍事

(1) 兵

カ

司令部ヨウツカ村ニ在リ

司令官少將 級氏名不詳

將校多数配属セララルモノ如シ

一九三九年駐屯セル兵約二三〇名ト

推定サレモ一九四〇年ニ至リ新ニ上

陸セルヲ認メズ

全員越年セザルモノノ如ク相着減軍セ

ルモノノ如シ

一九四〇年度ニ場陸セルモノノ中特ニ

注意スベキモノハ次ノ如シ

野戦重砲 七門

軍用トラック 一六台

其ノ他雜貨類多数

又ウスマチカムサツク村西北約一軒ノ地

奥ヨリベリヨゾウイヤール村ニ至ル間

ニ練兵場アリ

屢々自動車隊及兵ノ訓練スルヲ望見ス

ルコトアリ

猶當面ノ主カハベリヨゾウイヤール村

方面ニ在ルガ如シ

七月一五日至一六日ベリヨゾウイヤール

ル村方面ニ於テ野砲ノ實彈射撃ヲ實施

(2)

航空機

セリ	南	海	海	九	海	九	北	陸	九	北	北	海	陸	ウ
カ	カ	軍	軍	七	軍	七	カ	軍	八	カ	カ	軍	軍	ウ
ム	ム	中	中	一	中	一	ム	中	二	ム	ム	大	大	ウ
サ	サ	尉	尉	号	尉	号	サ	尉	号	サ	サ	尉	尉	ウ
ツ	ツ	ヲ	ヲ	渾	レ	渾	ツ	ク	渾	ツ	ツ	ヲ	ヲ	ウ
カ	カ	ザ	ザ	区	ヤ	区	カ	ズ	区	カ	カ	リ	リ	ウ
河	河	レ	レ	=	ド	=	河	キ	=	河	河	ヤ	ヤ	ウ
地	地	フ	フ	駐	↓	駐	地	ゾ	駐	地	地	丨	丨	ウ
方	方	((在	フ	在	方	フ	在	方	方	ン	ン	ウ
三	三	三	三	ス	(ス	三	ス	ス	三	三	((ウ
六	六	七	七	九	二	九	七	九	九	九	九	一	一	ウ
工	工	オ	オ	八	四	八	工	八	八	八	八	オ	オ	ウ
場	場	位	位	五	才	五	場	五	五	五	才	才	ウ	
ノ	ノ))	号	位	号	ノ	号	号	号	位	位	ウ	
擔	擔						擔							ウ
任	任						任							ウ
者	者						者							ウ

(3)

其

飛行艇ノ配属セラル、モ、ヲ認メズ
 カムサツカ河本流ヲ着水場トシ、ペトロ
 ハバロフスク間、往復飛行ハ一九三九
 年度ニ比シ半減セリ
 其ノ他
 快速艇ヲ有シ、小型砲及機關銃ヲ裝備ス
 國境警備隊ハ、グロノツキ、岬方面及ア
 ヲリカ岬方面ト連絡シアルモノノ如シ